

森林環境教育(森林ESD)活動報告・意見交換会発表概要

① 活動報告課題名

子どもと大学生が共に学ぶ 「ぴったんこ隊」

② 発表団体名

特定非営利活動法人 とよなか市民環境会議アジェンダ21

③ 発表概要

1. ぴったんこ隊とは

「ぴったんこ隊」は全5～7回の環境連続講座です。

各回「食べ物」「水」「森林」などのテーマを取り上げ、室内やフィールドで活動します。また、それぞれのつながりが回を重ねることにより理解できるプログラムにしています。

2. 対象者

小学1～4年生を対象に、学びをサポートする大学生、環境教育プログラム作りに精通したスタッフで運営し、子どもたちと学生(大阪大学環境サークル)の両者を複層的、相互的に育成します。大学生は、各テーマを学び、子どもたちに「伝える力」「共に考える場を作る力」「見守り、育てる力」を、スタッフによるサポートと実践で得ていきます。

3. 活動内容

森林ESDにおいて、2014年後期のぴったんこ隊では、豊中市立環境交流センターと大阪府能勢郡にある豊中市立青少年自然の家の両方を使って、学びを深めました。

まず、センターで「ぶたは飛べるの?」というゲームをしました。このゲームは生き物たちの絵カードを使って、足が何本あるか、歯はあるか、絶滅危惧種かなどを当てます。子ども達は動物の特徴を思い出しながら、ゲームを進めます。その後、子どもたちはリストを見ながら、豊中の生き物のカードと答えを作ります。身近にどんな生き物がすんでいるか、特徴を考え、みんなで遊びながら、生き物を観察する力をつけます。

次の回では森林をフィールドにした体験をしました。大学生には事前に森林からの恵み、日本の森林と世界の森林について話をし、短い劇を作ってもらいました。子ども達は、森からの恩恵と森の問題を劇で知った後、森を見る目を鍛えるために葉っぱ探しに出かけます。前回、みんなが描いた豊中の生き物がいないかも目や耳を使って一生懸命探します。その後、日本の森を守る一つの方法としての森林の整備を体験しました。

最後の室内のプログラムはテーマを「水」にし、世界の水の問題と、水の浄化実験を行いました。その中で、自然界では水の浄化を森林がしてくれていることを子どもたちは知り、森林から受ける恩恵について改めて考えました。

2014年度はここまででしたが、その後、2014年度の子どもたちを対象にした別イベントで、

森のつながりを感じられるグループワークの「みんなの森」を作ろうというプログラムを提供したり、大学生は2015年度のびったんこ隊の中で琵琶湖の漁師さんから、植林をしている話を聞いたりしています。

体験だけでなく、お話を聞く機会や、森林ではないテーマの中にも森林の話を入れ、他のものとのつながりを強調していくことで、子どもたちや学生は、森林についての知識と森林が様々なこととつながっているという気づきを得ていきます。

4. 成果

子ども達、学生たちはいい、悪いという単純な答えではなく、自分たちはどうしたらいいかと考える力がついてきています。特に学生たちは、子どもたちの多様な意見や表現を受け入れながら、皆で問題を考える場をどのように作っていくかを考えるようになっていきます。また、子どもたちから学ぶという姿勢も身につけてきました。

(現在、プログラム評価を専門家と一緒に検討中であり、1月には、具体的な成果を発表できると思います)

5. 今後

2014年から始まったびったんこ隊は3期を終えました。最初はサポートをし、10分のプログラムを作るので、精一杯だった大学生が、今は5回中2回のプログラムを運営できるようになってきました。今後は、大学の研修やサポートを充実させ、大学生のプログラム作りの精度を更に上げると共に、子どもたちの意向もプログラムに反映できるような仕組みを取り入れること、また、森林の課題の解決にも積極的にアプローチすることで、人育てと課題の解決を同時に行っていきたいです。